



里山と教育

報告者：佐野郷美



分科会の内容紹介

- ・日時：2008年5月10日
- ・場所：千葉県立船橋芝山高等学校
- ・参加者数：40名
- ・内容：

里山環境を復元した学校ビオトープ「芝山湿地」の見学、里山保全、生物多様性の維持における学校ビオトープの可能性について



本分科会のまとめ

■芝山湿地は復元型ビオトープ

かつての谷津田の自然を復元したビオトープで、多種多様な里山生物が生息し、地域の生物多様性を維持する場になっている。

■継続が課題

良好な環境を保つ学校ビオトープも、担当者の異動等で生物多様性も失われ、教育活動にも生かされなくなる。いかに維持できるかが課題である。

■地域との連携がカギ

地域住民や地域のNPO,NGOとの連携で維持されている学校ビオトープは、担当教師が異動しても継続できる可能性が高い。

教育委員会は教師の配置に配慮すべきだが、学校ビオトープの維持には地域との連携がカギ。

